

平成28年度学校評価アンケート結果分析

岐阜本巣特別支援学校

1 保護者対象アンケート結果

(1)「学校評価アンケート結果（保護者）」の分析

- ・ 全39項目の質問に対し、A「よくあてはまる」とB「ややあてはまる」といった肯定的な回答の割合が80%以上の項目数は、小学部で26項目、中学部で18項目、高等部で21項目あった。昨年度との比較で、小学部は6項目増、中学部は9項目の増、高等部で9項目の減であった。
- ・ C「あまりあてはまらない」、D「まったくあてはまらない」といった否定的な回答の比率が20%以上（比率として高いと考えられる）の項目数は、中学部の2項目のみであった。昨年度と比べて小学部は3項目の減、中学部は5項目の減、高等部は増減0であった。
- ・ 3学部すべてで「あてはまるA+B」の評価を受けた項目は、昨年度は8項目であったが、本年度は16項目あり、倍増した。このうち14項目は「教育方針」「家庭との連携」「教職員」「授業」に関することであり、学校教育の根幹となる重要な項目において高い評価を受けた。
- ・ 3学部すべてでE「わからない」の回答割合が多かった項目は「24体罰の防止」「25いじめ・差別への対応」「31社会資源の利用」「32ボランティア等との協力」「39地域のセンター的機能」であった。現状としては、体罰防止、いじめ・差別への対応は3学部とも全職員で取り組んでいる。このことから、これらの取組状況について、保護者に明確に伝える必要がある。

(2)「学校評価アンケート結果 昨年度との比較」による分析

- ・ 「あてはまるA+B」の比率が昨年度より増加しているのは18項目あり、昨年度より大きく増加した。よい方向へ進みつつあると思われる。
- ・ 項目24～39の「その他」と「学校独自の項目」については、E「わからない」の回答が多くあった。この結果を真摯に受けとめ、年度末にかけて十分に検討し来年度に向けて準備をする必要がある。

2 学校評議員対象アンケート結果

- ・ 保護者向けと同じ内容でアンケートを行った。概ね「あてはまるA+B」の評価をいただいているが、「30学校活動のPRを積極的に行っている」の項目では指摘があった。
- ・ 保護者アンケートの結果と同様に、学校の取組や様子を外部へ適切に発信する必要がある。

3 生徒対象アンケートについて

- ・ 実施しているアンケートの内容について課題があり、下記のように検討中である。
- ・ 質問の文章を教師が読み上げたり解説を加えるなどの支援をしたりしているが、生徒たちにとって質問の内容が難しいようである。
- ・ 保護者向けのアンケートにある専門用語等がそのまま使用されているため、語彙の理解に困難がみられる。
- ・ 生徒の視点も大切にしていこう必要があると考えられるため、来年度に向けて改善できるようにしていきたい。